

香取遺産

Vol.105

圓生涯学習課

☎(50)1224

莊嚴寺

人々に支えられた寺



▲不動明王



▲山岡鉄舟の扁額



▲大般若経六百巻

諏訪山不動院莊嚴寺は諏訪台字天王台に所在する真言宗の寺院で、牧野観福寺の末寺から単立となりました。以前は北横宿にありましたが、昭和26年(1951)に現在の位置に移転しました。

創建は寺伝によると江戸時代初期の寛永18年(1641)となつていますが、境内には永仁7年(1299)・文明・天文などの紀年銘をもつ板碑が存在しており、これらが本寺のものだとすれば鎌倉時代にさかのぼるものと考えられます。

寺には、不動明王、十一面観音菩薩などが安置されています。この不動尊は明治初年、佐原の佐藤氏が実家である新潟県蒲原郡菅谷村(現・新発田市)から勧請したことから、「菅谷不動」とも呼ばれています。また、同氏は同年、神仏分離によって廃寺となった香取神宮の別当寺金剛宝寺の本尊十一面観音を譲り受け、同寺に寄進しています(詳細は香取遺産第59回を参

照)。この十一面観音は昭和34年に国の重要文化財に指定され、平成元年に本堂裏手の観音堂に安置されました。

本堂正面には、「不動尊」の扁額が掲げられています。これは、幕末から明治にかけての政治家、剣客として知られた山岡鉄太郎(鉄舟)の書で、実に力強く書かれています。

また、江戸時代後期の寛政9年(1797)に寄贈された大般若経六百巻が伝わります。この大般若経は鉄眼版一切経といわれ版木をもとに摺られたもので、全巻が現存しています。各巻の表紙裏には寄付者名が記載されており、当時の人々の仏に対する思い、信仰の深さをうかがい知ることができます。昭和58年に修復され、経典を一齐にめぐりたたみ込むことで全体を読んだこととする転読が除災の願いのもとに行われました。

平成元年に続き、先の1月28日には3回目の転読が行われました。